

連載



前回の連載「新興国株式に人気回復の兆し」(2026年5月25日号掲載)では、国内投資信託市場において、新興国株式ファンドに資金流入の兆しが見られることを取り上げました。5月に入ってから新興国株式の好調なパフォーマンスは続いています。今回は足元の資金フローについてもう少し詳しく見ていきたいと思ひます。

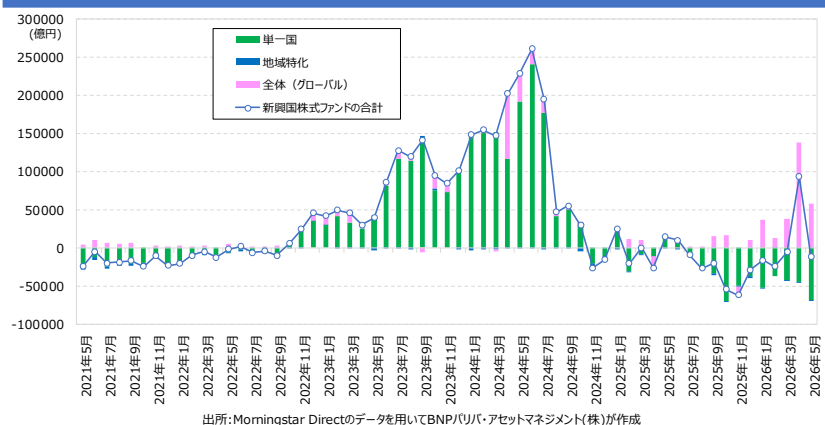
まず、5月の投資信託(ETFを除く追加型株式投信)の資金フローは1.7兆円の資金流入と、4月の1.3兆円から加速しました。一方で、新興国株式ファンドの5月の資金フローは111億円の資金流出と、8カ月ぶりの資金流入に転じた4月の932億円の資金流入からマイナスに転じています。ただし、新興国株式ファンドには、単一国に投資するもの、アジアや欧州といった地域の新興国に特化したもの、そして幅広く新興国株に投資するものなどがありますが、今回の局面では新興国株式全体に投資するタイプのファンドに資金流入が続いています。図表1を見ても分かるように、新興国全体(グローバル)に投資するタイプのファンドは4月の資金流入額1,400億円程度からは減速したものの、5月も600億円程度の資金流入となっており、6カ月連続の流入超となっています。過去12カ月で見ても、11カ月が資金流入となるなど、単一国に投資するタイプの資金流出が続く中で、投資家の継続した需要が見られているようです。

こうした資金流入の背景にあるのは、やはり新興国株式のパフォーマンスが改善してきたことです。

それも単一国ではなく、新興国のテクノロジーセクターが主導する相場上昇であったため、新興国全体(グローバル)の上昇を捉えたいという動きが強まったものと考えられます。過去10年ほどの投資信託市場を振り返ると、高い経済成長への期待から単一の新興国株式投資の人気の高まる場面はあったものの、新興国市場全体が注目される動きは見られませんでした。しかし、足元で新興国株式が先進国株式を上回るパフォーマンスを記録していることで、改めて(かつ久しぶりに)新興国全体の成長率の高さが注目されているようです。今年4月に国際通貨基金(IMF)が公表した最新の経済見通しによれば(図表2参照)、目先の新興国の経済成長率は先進国の2倍を超える成長率となることが見込まれています。長い期間にわたって新興国株投資が見過ごされてきたことで、日本の投資信託市場における新興国株式への資産配分は限定的なものにとどまっておひ、新興国株式ファンドへの関心は徐々に高まっていくものと思ひれます。

(執筆: BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表1 新興国株式ファンドにおけるタイプ別の純設定額 (2021年5月~2026年5月)



図表2 地域別のGDP成長率

